



2021年2月19日

各 位

会社名 株式会社フジオフードグループ本社
代表者 代表取締役 藤尾 政弘
(東証第一部 コード番号 2752)
問合せ先 執行役員 グループ財務経理担当 仁田 英策
TEL 06-6360-0306

**(訂正・数値データ訂正)2020年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)
の一部訂正について**

当社は、2020年8月14日に開示いたしました「2020年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 訂正内容と理由

訂正内容と理由につきましては、本日公表の「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度決算短信等の訂正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正の箇所には____を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみ全文を記載しております。

以 上



2020年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月14日

上場会社名 株式会社 フジオフードグループ本社
 コード番号 2752 URL <http://www.fujiofood.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤尾 政弘

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ財務経理担当 (氏名) 仁田 英策

TEL 06-6360-0306

四半期報告書提出予定日 2020年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第2四半期の連結業績(2020年1月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	12,784	31.7	1,604		1,654		2,251	
2019年12月期第2四半期	18,726	6.9	861	26.9	836	28.1	359	39.7

(注) 包括利益 2020年12月期第2四半期 2,589百万円 (%) 2019年12月期第2四半期 416百万円 (29.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第2四半期	52.19	
2019年12月期第2四半期	8.37	8.32

当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期第2四半期	25,600	6,037	23.6	139.77
2019年12月期	26,175	9,092	34.7	210.62

(参考) 自己資本 2020年12月期第2四半期 6,031百万円 2019年12月期 9,085百万円

当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期		0.00		22.00	22.00
2020年12月期					
2020年12月期(予想)					

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無 2020年12月期の配当につきましては、未定とさせていただきます。

2. 2020年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、2019年12月期につきましては分割前の実際の配当金の金額を記載しております。2019年12月期期末配当金の内訳 普通配当 20円00銭 創業40周年記念配当 2円00銭

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,675	27.9	1,884		2,323		3,439		79.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年12月期2Q	44,551,460 株	2019年12月期	44,539,060 株
期末自己株式数	2020年12月期2Q	1,403,430 株	2019年12月期	1,403,430 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年12月期2Q	43,144,610 株	2019年12月期2Q	42,975,519 株

当社は、2020年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、米中貿易摩擦の激化や新型コロナウイルス感染拡大に伴う消費活動の停滞などの影響により、景気の先行きはより一層不透明な状況となっております。

外食産業におきましては、昨年10月の消費税増税や新型コロナウイルス感染拡大に伴う政府や自治体からの休業要請や営業時間短縮要請、外出自粛などにより来客数が減少し、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、「大衆というカテゴリーで日本一の外食企業となる」という確固たる目標のもと、既存事業の全体的な底上げを行うための商品開発、業態ごとの販売促進キャンペーン活動、店舗におけるサービス力向上を図るための教育・研修体制の強化等を行い、「まいどおおきに食堂」を中心として、「神楽食堂 串家物語」、「手作り居酒屋 かつぼうぎ」、「つるまる」をはじめとする全業態の経営成績の向上に全社一丸となって取り組みました。また、お客様のニーズに合わせたお弁当販売やテイクアウト、宅配代行によるデリバリー対象店舗を拡大し、利便性向上に努めてまいりました。

新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、政府や各自自治体による休業や営業時間短縮要請に伴い、直営店230店舗の臨時休業、236店舗の営業時間短縮を行いました。また、店舗において従業員とお客様の安全確保を第一に、従業員の個人衛生チェックの実施やマスク着用の徹底、正しい手洗いやアルコール消毒の徹底、レジ前や客席での飛沫感染防止対策に取り組みました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高127億84百万円（前年同期比31.7%減）、営業損失16億4百万円（前年同期は営業利益8億61百万円）、経常損失16億54百万円（前年同期は経常利益8億36百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失22億51百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益3億59百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

<直営事業>

直営事業におきましては、国内及び海外において「まいどおおきに食堂」、「神楽食堂 串家物語」、「手作り居酒屋 かつぼうぎ」、「つるまる」等の事業展開を行っております。

当事業におきましては、「まいどおおきに食堂」を中心とした季節フェアキャンペーンの推進、既存店舗の美装改装、お弁当販売やテイクアウト、宅配代行によるデリバリー対象店舗の拡充を行い、全ブランドの既存店の業績改善に努めてまいりました。

以上の結果、直営事業全体の売上高は121億59百万円（前年同期比31.6%減）、セグメント損失は5億10百万円（前年同期はセグメント利益15億10百万円）となりました。

<FC事業>

FC事業につきましては、当社トレーナーが各加盟店に臨店して行う調理指導の他、店長会議、トレーナー会議等を通じて直営店における成功事例・問題点の共有を進めることにより更なる集客力の向上を図っております。今後も加盟企業との親密なコミュニケーションを図りながら問題点の洗い出し・解消を図り、さらなる集客・売上の向上を目指してまいります。

以上の結果、FC事業全体の売上高は6億25百万円（前年同期比34.5%減）、セグメント利益は4億24百万円（前年同期比35.6%減）となりました。

当社グループの2020年6月末時点の店舗数は877店舗（直営店（国内）534店舗、直営店（海外）5店舗、FC店（国内）333店舗、FC店（海外）5店舗）となりました。ブランド別の店舗数は以下のとおりです。

	直営店 (国内)	直営店 (海外)	FC店 (国内)	FC店 (海外)	合計
まいどおおきに食堂	138	4	247	2	391
神楽食堂 串家物語	85	-	28	-	113
手作り居酒屋 かつぼうぎ	32	-	6	-	38
つるまる	44	-	8	3	55
その他	235	1	44	-	280
合計	534	5	333	5	877

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して総資産は5億74百万円減少し、256億円となりました。

資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末から7億29百万円減少し、固定資産が1億54百万円増加しております。流動資産が減少した主な理由は、売掛金の減少1億84百万円、預け金の減少6億68百万円によるものであります。固定資産が増加した主な理由は建設仮勘定の増加3億28百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して24億81百万円増加し、195億63百万円となりました。これは主に借入れの実行による借入金の増加41億33百万円によるものであります。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払い等により、前連結会計年度末と比較して30億55百万円減少し、60億37百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは営業活動によるキャッシュ・フローが19億84百万円の支出、投資活動によるキャッシュ・フローが16億75百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが36億55百万円の収入となり、この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較して10百万円減少し、28億85百万円（前年同四半期連結会計期間は34億24百万円）となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動によるキャッシュ・フローは19億84百万円の支出（前年同四半期は13億58百万円の収入）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純損失30億43百万円になったことに加え、非現金支出である減価償却費が6億39百万円、のれん償却額48百万円、子会社株式評価損300百万円、減損損失622百万円発生したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動によるキャッシュ・フローは16億75百万円の支出（前年同四半期は31億17百万円の支出）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出が14億14百万円、固定資産の除却による支出が1億41百万円発生したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動によるキャッシュ・フローは36億55百万円の収入（前年同四半期は35億47百万円の収入）となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出が15億16百万円、配当金の支払いによる支出が4億74百万円発生したことに対して、借入れの実行による収入が56億50百万円あったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症の影響の見通しが立たず適正かつ合理的な算定が困難なため、通期連結業績予想を未定としておりましたが、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき予測値を算定いたしましたので、公表いたします。詳細につきましては本日公表の「特別損失の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,074	3,064
売掛金	448	263
たな卸資産	206	169
前払費用	326	284
預け金	1,287	618
その他	253	466
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	5,595	4,866
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	16,934	17,146
減価償却累計額	△7,566	△7,835
減損損失累計額	△988	△1,043
建物及び構築物 (純額)	8,378	8,267
工具、器具及び備品	5,680	5,831
減価償却累計額	△4,533	△4,705
減損損失累計額	△219	△275
工具、器具及び備品 (純額)	927	850
土地	1,519	1,523
建設仮勘定	241	570
その他	362	370
減価償却累計額	△280	△298
その他 (純額)	82	72
有形固定資産合計	11,150	11,284
無形固定資産		
のれん	1,758	1,709
その他	58	66
無形固定資産合計	1,816	1,775
投資その他の資産		
投資有価証券	1,084	611
関係会社株式	681	358
繰延税金資産	630	1,615
敷金及び保証金	4,293	4,087
その他	946	1,017
貸倒引当金	△22	△15
投資その他の資産合計	7,613	7,674
固定資産合計	20,579	20,734
資産合計	26,175	25,600

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,596	874
未払金	1,632	1,250
未払費用	555	415
資産除去債務	11	57
賞与引当金	42	-
株主優待引当金	95	134
未払法人税等	335	159
未払消費税等	299	103
短期借入金	200	3,950
1年内返済予定の長期借入金	2,621	3,037
その他	123	100
流動負債合計	7,513	10,083
固定負債		
長期借入金	7,391	7,359
リース債務	56	48
資産除去債務	1,161	1,130
預り保証金	300	294
長期末払金	126	113
繰延税金負債	33	33
持分法適用に伴う負債	500	500
固定負債合計	9,569	9,479
負債合計	17,082	19,563
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,194	2,199
資本剰余金	2,075	2,080
利益剰余金	5,707	2,981
自己株式	△876	△876
株主資本合計	9,101	6,385
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△31	△360
為替換算調整勘定	15	5
その他の包括利益累計額合計	△16	△354
新株予約権	7	6
純資産合計	9,092	6,037
負債純資産合計	26,175	25,600

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
売上高	18,726	12,784
売上原価	6,625	4,749
売上総利益	12,100	8,034
販売費及び一般管理費	11,238	9,638
営業利益又は営業損失(△)	861	△1,604
営業外収益		
受取利息	2	2
貸貸収入	19	14
施設利用料	-	10
その他	15	20
営業外収益合計	37	47
営業外費用		
支払利息	23	31
持分法による投資損失	2	25
貸貸収入原価	14	12
その他	21	29
営業外費用合計	62	98
経常利益又は経常損失(△)	836	△1,654
特別利益		
受取保険金	9	-
新株予約権戻入益	-	0
特別利益合計	9	0
特別損失		
店舗解約損	12	91
店舗休止損失	-	323
固定資産除却損	26	44
減損損失	84	622
投資有価証券評価損	70	-
子会社株式評価損	-	300
その他	-	7
特別損失合計	192	1,389
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	653	△3,043
法人税等	293	△792
四半期純利益又は四半期純損失(△)	359	△2,251
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	359	△2,251

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	359	△2,251
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	66	△328
為替換算調整勘定	△6	△9
持分法適用会社に対する持分相当額	△3	0
その他の包括利益合計	56	△337
四半期包括利益	416	△2,589
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	416	△2,589

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失 (△)	653	△3,043
減価償却費	697	639
のれん償却額	5	48
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	7	△7
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△21	△42
株主優待引当金の増減額 (△は減少)	2	39
受取利息及び受取配当金	△6	△4
受取保険金	△9	-
支払利息	23	31
為替差損益 (△は益)	1	0
店舗解約損	12	91
子会社株式評価損	-	300
固定資産除却損	26	44
減損損失	84	622
投資有価証券評価損益 (△は益)	70	-
新株予約権戻入益	-	△0
持分法による投資損益 (△は益)	2	25
売上債権の増減額 (△は増加)	△23	184
たな卸資産の増減額 (△は増加)	27	36
仕入債務の増減額 (△は減少)	△163	△721
預け金の増減額 (△は増加)	227	668
未収入金の増減額 (△は増加)	46	7
立替金の増減額 (△は増加)	△9	△0
未払金の増減額 (△は減少)	△147	△456
未払消費税等の増減額 (△は減少)	77	△195
その他	△141	△105
小計	1,444	△1,837
利息及び配当金の受取額	6	4
保険金の受取額	9	-
利息の支払額	△24	△32
法人税等の支払額	△77	△119
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,358	△1,984

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,490	△1,414
無形固定資産の取得による支出	△10	△17
固定資産の除却による支出	△17	△141
定期預金の預入による支出	△70	△70
定期預金の払戻による収入	170	70
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	△1,589	-
関係会社株式の取得による支出	△35	-
貸付けによる支出	△30	△49
貸付金の回収による収入	19	24
長期前払費用の取得による支出	△18	△4
敷金及び保証金の差入による支出	△57	△136
敷金及び保証金の回収による収入	94	146
その他	△81	△81
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,117	△1,675
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	100	3,750
長期借入れによる収入	5,100	1,900
長期借入金の返済による支出	△1,246	△1,516
株式の発行による収入	74	8
配当金の支払額	△471	△474
リース債務の返済による支出	△8	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,547	3,655
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△5
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,781	△10
現金及び現金同等物の期首残高	1,642	2,895
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,424	2,885

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国の一部店舗の休業および営業時間の短縮等により来客数が減少し経営成績に大きな影響を受けております。

当該状況は、2020年7月以降は緩やかに回復し、2020年下期には収束へ向かうと想定して、固定資産の減損、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	F C事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,771	954	18,726	-	18,726
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	17,771	954	18,726	-	18,726
セグメント利益	1,510	659	2,169	△1,308	861

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,308百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なもの、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、株式会社グレートイースタンを連結子会社としたことに伴い、前連結会計年度の末日と比べ、当第2四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「直営事業」セグメントにおいて1,336百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第2四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては84百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社グレートイースタンを連結子会社としたことに伴い、のれんの金額に重要な変動が生じております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間の「直営事業」セグメントにおいて1,719百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	FC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,159	625	12,784	-	12,784
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	12,159	625	12,784	-	12,784
セグメント利益又は損失(△)	△510	424	△85	△1,518	△1,604

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,518百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第2四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては622百万円であります。